

広告特集 企画・制作 朝日新聞社広告局

# 2001 The frontier of English education

## 2001年 英語教育最先端

### ～情報ネットワーク社会と英語学習～ 採録

2月18日、有楽町マリオン朝日ホールで「2001年英語教育最先端」シンポジウムが開催された。基調講演では、東京外国語大学学長の中嶋嶺雄氏が「新世紀の英語教育」と題して、英語教育の今後歩むべき方向性を提起した。第二部のパネルディスカッションでは、英語に様々な形でかかわってきたパネリストが、英語を合理的かつ楽しく学ぶ方法を話し合った。

主催／朝日新聞社 後援／文部科学省 協賛／株式会社キーネット

## 第2部 パネルディスカッション

**野中** 今回のテーマは、英語教育最先端ということで、パネリストの皆さんには、これからの時代に英語とどうつきあっていくべきなのか、何をどう変えればよいのかという点を語っていただきたいと思っています。まず早見さん、お生まれは日本なんですか。

**早見** はい、日本で生まれて3歳からアメリカで生活していたので、気がついたら英語を話していたという感じです。学校では英語、家ではだいたい日本語という



英語は一つの道具にすぎない。そのパワーは可能性を秘めている。野中とも



英語で授業を受けた生徒たちはアイデンティティーを持つようになる。加藤正秀氏

形で使い分けていましたね。

**村松** 私にとって英語とは飯の種だった。戦後、アメリカ軍の通訳の仕事をするようになって、英語ができるようになればなるほど、給料が増えていった。それが刺激になって、勉強するのが楽しくなりました。

**野中** 加藤さんは、理想の学校を追求し、革新的なプログラムを導入された。

**加藤** ええ、私どもの学校では、幼稚園

グリッシュ・イメージ・プログラムを導入しました。クラスの生徒たちは、英語で物事を考え、英語で発表します。また、英語で教えられた内容もきちんと日本語で説明できます。

**白井** 将来、英語が必要になるんだなという動機を子どもに教えることが大事なのだと思います。何でいさら、日本語で生活してきた人に英語を押し付けるのか。

**野中** さあ、中嶋先生は、どう思われますか？

**中嶋** 少なくとも6年間習っている英語を使えない状況のまま放置するというのは、あまりにももったいない。それを使える英語にするには、今までの英語教育を抜本的に改善しなければと思います。

**野中** はい。いよいよ具体的に、日本の英語教育のどんなところを改善していけばよいのでしょうか。

# IT時代、高まる英会話

## 第1部 基調講演

## 新世紀の英語教育

なかしま みねお 東京外国語大学学長 中嶋 嶺雄氏

なぜ、英語が必要なのか。やはり、英語は世界の共通言語として、外国人とのコミュニケーションをとることができる道具だからだと思います。特に、これから日本を背負って立つ若い人たちが、世界へ羽ばたくために英語が必要になってくる。

変動する国際社会においては、グローバル化が進行する一方で、いわゆる地域的なアイデンティティーが重要になってくると思います。ただ語学を学ぶのではなく、言語というものが持つ、文化的、文明的な意味が重要になってくる。そして、そういう状況のなかで、国際コミュニケーションの手段として、国際共通語の英語がさらに多様化していくでしょう。つまり、いろいろな英語がでてくるのではないかと。重要なのは世界の人々とコミュニケーションできる英語、通用性のある英語であるということだと思います。英米語だけが世界を覆えばいいということではない。その国、地域に根差した英語が必要であると思っています。だから、日本人は発音が悪くても相手に通じる英語を話せばいいのです。

私は文部科学省の「英語指導方法等改善の推進に関する懇談会」の座長を務めさせていただきました。懇談会では、日本に滞在されている外国人や英語の専門家などが集まり、英語教育に関してさまざまな視点から議論を行ったのですが、日本人が外国語、特に英語の運用能力を欠如させたままでは、世界の舞台で立ち行かなくなるのではという危機感では一致しました。そこで、小学校から大学に至るまで一貫した英語

教育の指導方法の改善を提示することになったわけです。

改善策として、小・中・高等学校の相対評価から絶対評価への移行、教科書などの指導要領の改正、科学技術の発達にあわせてIT(情報技術)機器の使用、異文化理解に長けた教員を育成する研修などが挙げられました。特に大学では「英語を学ぶ」のではなく、「英語で学ぶ」方向にカリキュラムを改革し、学生たちが英語で読することなく、堂々とコミュニケーションできるようにしなければならない。日本国憲法や教育基本法では、「国民は能力に応じて教育を受ける権利を持つ」とあります。英語にかかわらず、現在の日本の教育では、目的、能力に合った教育、よくできる者にはさらに能力を伸ばせるような教育が為されていない。そこを根本的に改善してほしいと思います。

今の日本では英語は身近なものとなりました。皆さんのほとんどは、中学、高校と6年間は英語をやってきたわけで、いわゆる自分の知的財産になっているわけです。しかし、その知的財産をお蔵入りさせてしまっている意味がありません。もう一度手入れをして、使うことが大切なのです。

一つの外国語を学ぶことは、一つの世界が開かれることです。英語ができるようになったなら、次は中国語、韓国語などアジアの言葉にも挑戦してみてください。そして、外国語をマスターすることで、これからの国際社会における言語の持つ重要な意味を考えてほしいと思っています。

### 出演者

●パネリスト 東京外国語大学学長 元サイマル・インターナショナル会長 加藤学園理事長・KLCカレッジ学長

中嶋 嶺雄氏 村松 増美氏 加藤 正秀氏

女優・歌手 エスコム代表取締役会長 ジャーナリスト

早見 優氏 白井 基義氏 野中 とも氏

中にあるものを教えるといい。そして、間違いを帰国子女に指摘されたら、逆に教わるぐらいの余裕を見せたらよいのだと思います。



好きな映画を繰り返し見てもセリフを覚えていく。早見優氏

**早見** 先生の話ではないのですが、私は日本に帰ってきて、英会話はネイティブのように話せるので問題はなかったのですが、英文法はなんて難しいんだと思ったのを覚えています。

語が目的となり、大部分の学生たちは話せない状況になってしまった。それでは、英語を話せるようにするにはどうしたらいいのでしょうか。

**白井** 私の意見では、まず音から覚えることですね。音から覚えると意味は後からついてくる。例えば変な日本語ですが、「ヒルトンホテルへ行って、ステーキハウスでシェブにローストビーフを頼んで、ジュシーでマイルドでベリーグッド」というのは、8割英語です。しかし、意味は分かる。そんなもので、慣れれば分かったような気がするのですよ。

**中嶋** 中学ぐらいの英語の教科書を、短期集中で繰り返し暗記することが英語を話すようになるコツだと思います。覚えたものを話してみると通じて、相手が反応する。そして、うれしくなる。そうすると世界がどんどん開けていくのです。これは確信を持って言えることです。

上げたい。分からなくて恥ずかしがる必要はないんです。ニヤニヤ笑うのが一番駄目。私だって、スペルや発音が分からないことがあります。そういう場合、「私は日本人だから教えてくれ」と英語で言えば、外国人の方々は喜んで教えてくれますよ。要は英語でコミュニケーションする意思を「行動」に「翻訳」することです。



英語を学んだという経験を無駄にしてはならない。中嶋嶺雄氏

**加藤** そうですね。ネイティブの先生も言

1/38

5  
15  
53  
334  
179  
711  
1353  
1518  
2808  
3367  
7209  
0613  
1735  
10  
18#  
11#  
42#  
66#  
22#